

■秦野版/No.2622平成22年6月3日(木)号

今、タウンニュースが面白い

ソフト
テニス

松元康希・原碩亮ペアが全国へ

気持ちの切り替えと粘りのプレーで県大会制す



念願の全国出場を決めて笑顔の松元(左)・原ペア

秦野ジュニアソフトテニスクラブ所属の松元康希・原碩亮ペア(ともに大根小6年)が、5月16日に横浜市立南高校で行われた「平成22年度全日本小学生ソフトテニス選手権大会神奈川県予選」で優勝。県代表として、全国大会への切符を手にした。

同大会は、地区大会を勝ち抜いた18ペアで競われた。松元・原ペアは予選ブロック2戦を危なげなく突破し、6ペア総当たり戦の決勝リーグへ。初戦、後藤・為我井ペア(横浜泉)を4-3で降し、迎えた2戦目、近藤・齋藤ペア(大和)に0-4のストレートで敗れた。「気持ちの切り替えと粘りのプレーで県大会制す」

だが一時的に落ちたけど、次は負けられないと思っただけで、ここまでの気持ちの切り替えがよかった」と同ペアは話した。続く3戦目の工藤・渡辺ペア(大和)を4-3で破って勢いを取り戻し、4戦目の石川・荒川ペア(横浜泉)を4-1、最終戦では春の小学生選手権全国2位の強豪、飯田・平野ペア(伊勢原)を4-2で撃破した。「楽な試合がなかった」と同ペアが振り返るように、2位以下3ペアが3勝2敗という大混戦となったリーグ。後衛がつなげて前衛が決めるプレーで接戦に次ぐ接戦を粘りきり、4勝1敗で優勝を勝ち取った。同ペアは、ともに父親の影響で4歳からラケットを

握り始めた。小学2年生のときからペアを組み、同じクラブで練習を重ねてきた。全国大会へは冬の大会で3回出場経験があるが、夏の大会では今回が初めて。「とにかく2人で全国に行きたかった」との思いが結実した。松元選手は「初戦に勝つて波に乗りたい。できればベスト4に、原選手は「ベスト4に入りたいです」と息もぴったり。8月5日(木)から8日(日)まで北海道旭川市で行われる全国大会に挑む。